

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-11	小学校	国語科	書写	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	書写 201	新しい しょしゃ 二		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが、未来を拓く^{ひら}

この教科書では、文字の整え方を発見し、考え、自分の文字に生かすという課題解決の過程を通して、生涯にわたって活用できる「書く力」を育みます。

「書くことが楽しい」「自分の文字をよりよくしたい」そんな思いを膨らませながら、全ての児童が書写の学びを豊かに広げていけるように、そして、未来を切り拓く力をつけていけるように、私たちはそう願って編修しました。



特色

1

文字の整え方が分かる

文字を正しく整えて書くために必要な知識・技能を「書写のかぎ」と名付けて、「何を学ぶか」を明確にしました。また、基礎・基本を確実に身につけられるように学習過程を構成し、「どのように学ぶか」を明確にしました。これによって、書写で育成すべき資質・能力を整理しています。

特色

2

日常の文字に生きる

学んだ「書写のかぎ」は、日常生活の中で書く文字に生かすことで初めて、生きて働く力となります。「書写のかぎ」を活用していく場面を、基本単元内と活用を主とする単元との2段階で設定し、確実な定着を図るようにしました。

特色

3

書くことが楽しい

分かるようになること、できるようになることは、児童にとって大きな喜びです。文字を正しく整えて書くための書き方が分かり、生活の中で書く文字に生かすことで、自分の文字が成長した喜びを実感できるように編修しました。

特色

1

文字の整え方が分かる

◆「何を学ぶか」を明確にした「書写のかぎ」

- 書写のねらいである「正しく整った文字を書く」ために必要な知識・技能を「書写のかぎ」と名付けました。小学校6年間で学ぶことを系統的に整理し、学年段階を踏まえて各単元に配置しました。

基本単位 p16 - 17

基本単位 p24 - 25

書写のかぎ

- 画と画が はなれて いる。
- 画と画が ついて いる。
- 画と画が 交わって いる。
- 画と画が はなれて いる。
- 画と画が ついて いる。
- 画と画が 交わって いる。

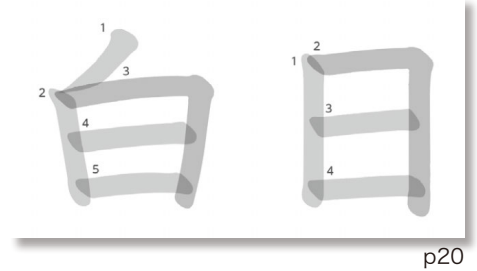
形が同じ部分ば、ひつじゅんで書く。

左から書く。

上から書く。

同じ

- ひらがな、かたかな、漢字の字形や点画の書き方を分かりやすく示すために、新しく文字を作成しました。大きな文字で線が太く、字形や筆圧の変化が分かりやすくなっています。さらに、一筆一画ごとに分解して色分けすることで、ひと筆で書くところが理解しやすくなり、字形の認知に困難を抱える児童にも効果的です。配色は色覚多様性に配慮したものになっています。



◆「どのように学ぶか」を明確にした学習過程

「書写のかぎ」を核にした課題解決型学習の単元展開です。

基本単位



見つけよう

文字を指でなぞったり比べたりして、文字を整えて書くための「書写のかぎ」を見つける。



たしかめよう

教材文字を書いて、「書写のかぎ」を確認する。



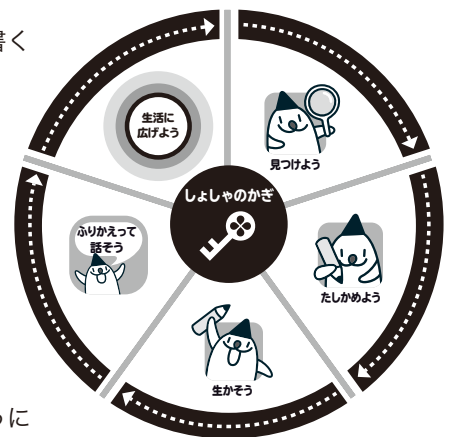
生かそう

「書写のかぎ」を生かして、ほかの文字を書く。



ふりかえって話そう

単元の学びを通して何が分かったか、何ができるようになったか、友達と話し合うことで自らの学びを確認する。



生活に広げよう

基本単元で身につけた「書写のかぎ」を、他教科の学習や生活の中で活用する単元。

学びを生かそう

学年のまとめ単元。1年間の学習を振り返り、学んできた「書写のかぎ」を使って文字を書いたり、生活の中の場面で活用したりする。

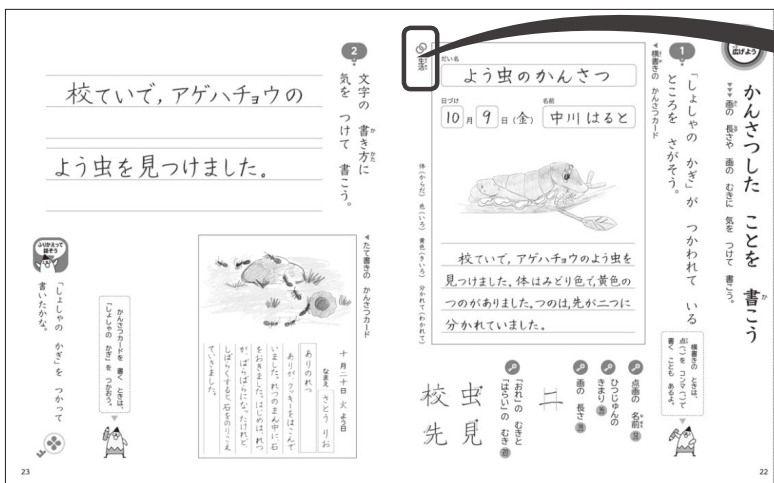
2 日常の文字に 生きる

◆ 学習の基盤作りに役立つ「楽しく書こう」

- 第1単元「楽しく書こう」では、文字を書く姿勢と筆記具の持ち方について、写真を中心に丁寧に説明しています。毎学年の第1単元で取り上げることで、新年度を迎えた児童が新たな気持ちで自らの学習基盤を見直すきっかけとなるよう工夫しました。
- 左利きの児童の学びやすさを考え、左手で鉛筆を持つ写真や、左手で書くときの手の位置を示した写真を掲載しています。全ての児童が円滑に学校生活をスタートできるように、学習上のつまづきを起こさせない配慮をしています。

◆ 実の場に生かす「生活に広げよう」

- 基本単元で身につけた知識・技能を生活に生かす単元として、「生活に広げよう」を設けています。国語や他教科の学習、生活の中で扱う書式や内容を題材に、年間3か所設定しています。第2学年では、連絡帳、観察カード、手紙や感謝状を取り上げています。



書写の力を活用する具体的な場面や書式を取り上げて、関連する教科名をマークとともに示しました。

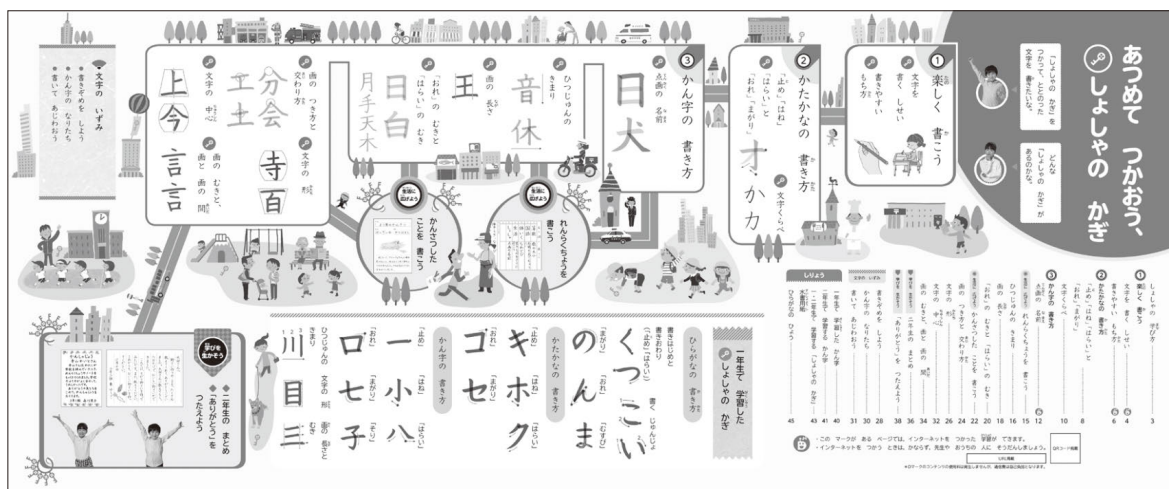


生活に広げよう「かんさつしたことを書こう」p22 - 23

3 書くことが 楽しい

◆ 「分かった」「書けた」から広がる楽しさ

- 教科書を開いた最初のページは、1年間の学びを見通すイラストマップ「あつめてつかおう、『しょしゃのかぎ』」です。「『書写のかぎ』を集める旅」をテーマに、1年間かけて各単元の「書写のかぎ」を集めると自分の文字がもっとよくなるというイメージを持たせて、書写学習への意欲づけを図っています。
- 「書写のかぎ」を核とした単元構成で、「整った文字を書くにはどうしたらいいのか分かった」「自分の文字がよりよくなった」という実感を持ち、「もっと書きたい」という意欲につながるよう工夫しました。



「あつめてつかおう、『しょしゃのかぎ』
表紙裏・p2

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(頁)
	● 書写の学習を通じて幅広い知識・教養が身につくよう、教材の題材や内容に配慮しました。(第1号)	全体
「あつめてつかおう、『しょしゃのかぎ』」	● 学年冒頭で年間の見通しを持つことで、自主・自律の精神を養うよう配慮しました。(第2号)	表紙裏 ~ 2
「しょしゃの学び方」、学習過程	● 学び方を理解することで、主体的に学習に取り組む態度を養うよう工夫しました。(第2号) ● 単元末の振り返り「ふりかえって話そう」や、互いの文字や書く様子を見合う児童の写真などから、協働的に学ぶ態度を養うよう工夫しました。(第3号)	3 3・37
「楽しく書こう」	● 児童の健康管理上から姿勢・執筆法を重視し、姿勢の写真と解説を示しました。各学年で繰り返し掲載し、定着を図っています。(第1号) ● 書く姿勢や筆記具の持ち方について各学年で取り上げ、学習の基盤作りと学習習慣の形成に寄与しています。(第2号)	4 ~ 7
教材文字、題材	● 教材文字や題材は以下のような観点を重視して選定しました。豊かな情操と道徳心を培う(第1号)、勤労を尊ぶ態度を養う(第2号)、平等と協働を大切にすることを養う(第3号)、生命尊重と環境保護に寄与する態度を養う(第4号)、伝統・文化の尊重と自国・他国の平和を願う態度を養う(第5号)。	全体
「生活に広げよう」 「学びを生かそう」	● 「れんらくちょうを書こう」を通して、学習習慣を確立して自主・自律の精神を養うよう工夫しました。(第2号) ● 「かんさつしたことを書こう」で、身近な動植物の観察を通して、自然環境や生命を大切に思う態度を育成するよう工夫しました。(第4号) ● 「『ありがとう』をつたえよう」で、お世話になった人への感謝の気持ちを伝えようとする態度を養うよう工夫しました。(第3号)	15 22 ~ 23 38 ~ 39
「文字のいずみ」	● 書き初めの教材を設けて、日本の伝統文化への関心が高まるよう工夫しました。(第5号) ● 漢字の成り立ちに関する教材を設けて、文字文化に関心が高まるよう工夫しました。(第5号) ● 伝統的な言語文化に関連する文章をなぞり書きする教材を設けて、書くことで伝統や文化に触れられるよう配慮しました。(第5号)	28 ~ 29 30 31

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 全ての児童が使いやすい紙面への配慮

① ユニバーサルデザインへの取り組み

- 左利きの児童の学習しやすさを考慮して、原則として単体文字では教材文字を上、書き込み欄を下に配置しました。また、文を書くときは書き込み欄を左右に配置しました。右利き、左利きどちらの場合でも教材文字が見やすいよう工夫しています。
- 情報を整理して、だいたいのことがひと目で分かる紙面になるよう工夫しています。

② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ページにわたって検証を行っています。
- 学習の流れや情報の軽重が分かりやすいレイアウトにし、イラストやキャラクターに使う色の数や分量を抑制することで、児童の集中を妨げないよう配慮しています。
- 文意を理解しやすいように、文節で改行しています。
- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

③ 人権上の配慮

- 作例や写真・イラストなどに登場する人物について、性別による役割の固定化や人数の偏りがないように配慮しました。
- 社会の多様性を鑑み、児童の家庭環境に関わる表現にも十分配慮しました。

④ 造本上の工夫

- AB判のワイドな紙面を活用して、図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させています。
- 巻頭折込「しよしゃの学び方」を開いておくと、単元のページと同時に見ることができるので、学び方を繰り返し確認することができます。
- 巻末資料「一年生で学習した漢字」には主な読み方を加え、未習の漢字でも探しやすくしました。
- 巻末に水書用紙をつけました。はがして使用することを想定して、剥離しやすい特殊な糊を使用しています。

2. 今日の課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶか（「しよしゃのかぎ」）、どのように学ぶか（「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」の学習過程）ということを明確かつ丁寧に示しているため、無理なく指導ができます。
- 必要に応じてページの下端に「学習にあたって」として、**先生や保護者に向けた指導上の留意点**を示しました。
- 教科書上のQRコードやURLからインターネットを活用して、書く姿勢や筆記具の持ち方の映像、書写体操のアニメーションなどを見ることができます。一斉に映像を見せながら個別指導を行うなど、**授業の効率化**に役立つよう工夫しています。
- 教師用指導書として、豊富な映像や資料を収録したDVD-ROMやワークシートの作成を予定しており、教材研究や授業の準備を効率的に行えるように工夫しています。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 基本単元の「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の各過程は10～15分程度の活動を想定しており、前後の関連に配慮しつつ、**短時間学習**として扱うことも可能です。
- 「生活に広げよう」は、国語や他教科で取り上げられる言語活動を題材としているので、関連付けたり合科的に扱ったりすることが可能です。

③ 道徳教育との関連

- 豊かな情操と道徳心を養うような言葉を、教材として選定しました。
- 対話的な振り返りや学び合いを取り入れた学習活動を通して、互いを尊重し理解を深める態度を養うよう工夫しました。
- 感謝の気持ちを手紙などに書いて伝えるという活動を通して、他者を思いやる心を育むよう工夫しました。

④ 教科横断的に取り組む教育課題への対応

キャリア教育


野菜作りをしている人に感謝の手紙を書くという題材を通して、さまざまな職業へ関心を持つきっかけとなるよう配慮しました。(p38)

環境教育

身近な動植物の観察を題材として取り上げて、環境保護への意識を高めるよう配慮しました。(p22)

3. その他の取り組み

① ICT活用、デジタルコンテンツの充実

- 教科書上のがある単元では、学習に役立つデジタルコンテンツを提供しています。インターネットを使って、書く姿勢や筆記具の持ち方の映像、書写体操のアニメーションなどを見ることができます。**家庭学習**や**個に応じた指導**にも効果的です。
- 教科書と同じ内容の学習者用デジタル教科書を発行します。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表，担当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-11	小学校	国語科	書写	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	書写 201	新しい しょしゃ 二		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

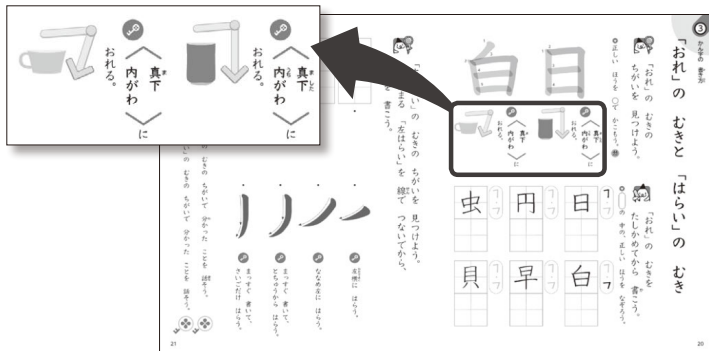
特色

1

文字の整え方が分かる

1. 習得すべき知識・技能を系統的に配列 「何を学ぶか」

- 文字を正しく整えて書くための知識・技能，汎用的な原理・原則を「書写のかぎ」と名付けて，「姿勢・持ち方」「点画の書き方」「書くときの動き」「字形」「配列」「筆記具」のカテゴリーに分けて分類・整理しました。単元のねらいを焦点化し，原則として一単元に一つの「書写のかぎ」を配置しています。
- 「書写のかぎ」は当該単元に示すだけでなく，その後の単元で活用する場面でも繰り返し提示して，定着を図るようにしています。



基本単元 p20 - 21



「生活に広げよう」 p22 - 23

2. 思考力・判断力・表現力を育てる学習過程 「どのように学ぶか」

「書写のかぎ」を核とした課題解決型学習の単元展開です。文字に対してさまざまな見方・考え方を働かせて，教材文字から課題を見出し，解決について考えたり言葉に表出したりする活動を通して，主体的に課題に取り組む態度を養い，思考力・判断力・表現力等を育成します。習得と活用を組み合わせた学習過程になっています。

基本単元

生活に広げよう

学びを生かそう



見つけよう…文字を観察したり比較したりして思考し，「書写のかぎ」を見つける。



たしかめよう…見つけた「書写のかぎ」を使って実際に書くことで，「書写のかぎ」の内容を確認し，理解を深める。



生かそう…「書写のかぎ」がほかの文字にどのように使われているのかを理解して書くことで，定着を図り，日常に広げていく。

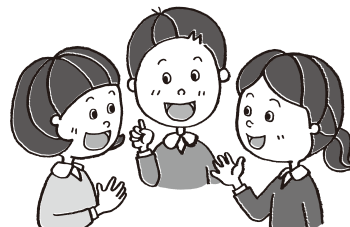


ふりかえって話そう…単元の学びを通して，どのような知識・技能を身につけたのか，友達と話し合うことで自らの学びを確認する。



基本単元で身につけた「書写のかぎ」を，生活の中で活用する単元。

学年のまとめ単元。1年間の学習を振り返り，学んできた「書写のかぎ」を使って文字を書いたり，生活の中の場面で活用したりする。



3. 「主体的・対話的で深い学び」に導く工夫

①見通しと振り返りの充実

- 冒頭に、1年間の学びを見通す「あつめてつかおう、『しょしゃのかぎ』」を設けました。
- 単元末の振り返り「ふりかえって話そう」は、個別の自己評価にとどまらず、友達や先生との対話を通して深まりのある評価ができるように導いています。
- 学年最終単元「学びを生かそう」は、1年間の学びを振り返って、学んだ「書写のかぎ」をどう使うか考えながら、主体的に取り組めるような展開としています。振り返りでは、友達や自分自身と対話することで、1年間の学びを自らの中に落とし込めるように導いています。

②「書写の学び方」を学ぶ

「しょしゃの学び方」は学習過程を分かりやすく図解したものです。児童自身が書写の学び方を知って学習のねらいを理解することで、主体的に学ぼうとする態度を育みます。

③協働的・対話的な学びの姿

書いた文字や書く過程について互いに見合い評価している場面を、写真で具体的に表すことで、多様な学習方法の可能性を示唆しています。個の学習にとどまらず、協働的に学ぶことで、学びの質が高まります。

特色 2 日常の文字に 生きる

① 実の場に生きる力を育てる単元配列と「生活に広げよう」

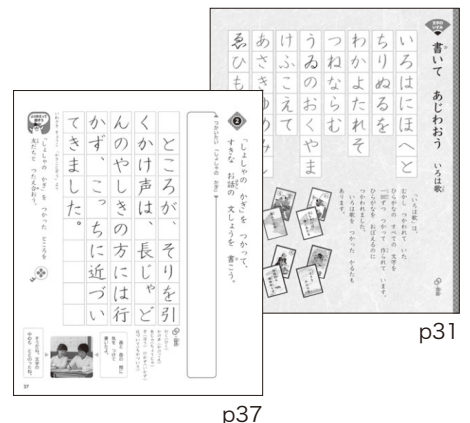
基礎・基本となる知識・技能を習得する基本単元を数単元学習した後に、実の場に活用する単元「生活に広げよう」を設ける配列としています。習得と活用を効果的に組み合わせながら、書写の力の定着を図るよう工夫しています。

「生活に広げよう」単元一覧

	日常生活における「書くこと」での活用	国語や他教科の学習での活用	相手に気持ちを伝えるコミュニケーションでの活用
1年	にっきをかこう 国語 / なまえをかこう / できるようになったよ 生活		
2年	れんらくちょうを書こう	かんさつしたことを書こう 生活	「ありがとう」をつたえよう
3年	原こう用紙に書こう	実験したことを記録しよう 理科	はがきでつたえよう
4年	ノートを書こう	調べたことを伝える新聞を作ろう 社会	お礼の気持ちを手紙で伝えよう
5年	ノートを書こう	委員会活動を伝えるリーフレットを作ろう 国語	六年生におくる言葉を書こう
6年	インタビューのメモを取ろう	発表のためのポスターを書こう 総合的な学習 英語 社会	書写展覧会を開こう

② 国語との連携

- 「生活に広げよう」などの教材には、国語の言語活動で用いられる書式を積極的に取り入れました。国語での学習事項に配慮した内容となっているので、国語の授業と合わせた効率的な指導も可能です。
- 「書いてあじわおう」と学年のまとめ単元「学びを生かそう 二年生のまとめ」の教材文字は、国語教科書に掲載されている文章を取り上げて、書写の学びを国語の中でも生かせるように工夫しました。「書いてあじわおう」では「いろは歌」、学びを生かそう」では「かさこじぞう」（物語）を取り上げています。



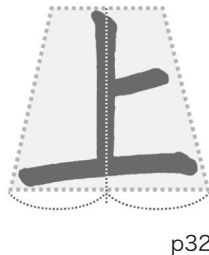
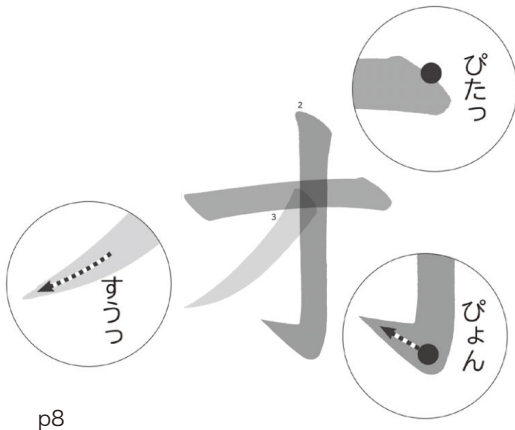
書くことが 楽しい

① 次の学びに向かう意欲を育てる学習サイクル

- 「整った文字を書くにはどうすればいいのか分かった」「自分の文字がよりよく変わった」という実感が、次の学びに向かう原動力になります。習得すべき知識・技能を「書写のかぎ」として具体的な文言で明確に表現し、実の場での活用を組み込んだ学習過程を組織することで、「さらに学びたい」「ふだん書くときに生かしたい」という意欲を引き出すよう工夫しました。学びの充実が、書く楽しさにつながります。

② 興味・関心を引き出す学び方の工夫

- 文字による丁寧な説明だけでなく、図解やイラスト、写真などを取り入れて児童の内容理解を助け、興味・関心を引き出すように工夫しました。筆順を表す色や書き方を表す記号など、学年を超えて使用されるものは統一を図る配慮をしています。
- 点画の書き方の特徴を、第1学年と同じく擬態語を使って表現し、直感的に理解できるよう工夫しています。擬態語を唱えながら指でなぞるなど**多感覚への働きかけ**をすることで、全ての児童が自分にとって有益な方法で内容を理解できるよう工夫しました。
- 運筆能力の向上を目指して、**水書用紙**を使った学習方法を取り入れました。学習の機会が等しくなるよう配慮し、巻末に水書用紙をつけました。



③ 知的好奇心を刺激する文字文化单元「文字のいずみ」

我が国の伝統や文化の中で育まれてきた文字文化を、文字そのものと、文字を書くこととの二つの側面から取り上げた单元です。1～2ページの单元のほかに、適宜コーナーを設けています。伝統を引き継ぎ、これからの文字文化の担い手となる児童に、文字の持つ力を感じるきっかけとなるよう工夫しました。

- 文字に関する知識…「かん字のなりたち」
- 伝統的な文字文化…「書きぞめをしよう」
- 古典作品のなぞり書き…「書いてあじわおう」（「いろは歌」）

検討の観点と内容の特色

観 点	特 色
1, 教育基本法への対応	<ul style="list-style-type: none"> 書写学習を通して、幅広い知識と教養を身につけるとともに、自らの文字を正しく整ったものにしていく課題解決の過程で、自主・自律の精神を養えるよう編修しました。 文字文化单元「文字のいずみ」を通して、伝統と文化を尊重する態度を養うよう配慮しました。
2, 学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の書写に関する事項をもれなく指導し、ねらいを達成できるよう、单元を組織・配列しています。

3, 内容・系統・配列	
① 単元の系統性	<ul style="list-style-type: none"> ● 書写学習の基礎・基本的な事項を確実に習得できるよう、学年の発達段階に応じて重点化しながら系統的に単元を配列し、螺旋的に学習できるように工夫しています。 ● 単元ごとに原則として一つの「書写のかぎ」を置き、単元名にも指導事項を端的に示すことで、学習のねらいを明確化・焦点化しています。 ● 書写の学習要素を系統的に分類・整理して、児童自身が系統性を意識した学習ができるよう工夫しています。
② 2・3学期制や複式指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の配列及び時間配当は、3学期制、2学期制のいずれにも対応できるよう配慮しています。 ● 複式指導に配慮して、異なる学年でも単元の区切りが同時期になるよう、単元配列を工夫しています。
4, 教材の選定	
① 教材の程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● 各単元の指導事項に適した字形を持つ文字であり、かつ、学年段階に応じた語彙を選んでいきます。 ● 学年の配当時数に照らして適切な単元数、分量にしています。 ● 児童の学びやすさを考慮した簡明な字形・書き方としています。学習指導要領の学年別漢字配当表の字形に拠って、書風は健康的で明るく、濃度や筆圧にも配慮して執筆しています。 ● 図解やイラスト、写真などを取り入れて、児童の内容理解の助けとなるよう工夫しています。
② 国語科国語や他教科の学習、学校生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 「生活に広げよう」において、観察カードや手紙など、国語と連動させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写力を育成するようにしています。 ● 日常生活の中では横書きが多い現状に考慮し、他教科の学習や生活の中で使う例として、横書きの教材も取り入れています。(p22) ● 国語や他教科の学習と連動している教材には、関連マークをつけて意識づけを図っています。 ● 「こんな本もいっしょに」で、教材に関連する図書を紹介して読書指導の充実を図っています。(p30) ● 当該学年の漢字を提出する際は読み仮名や筆順を示し、国語の学習時期による支障がないよう配慮しました。
5, 特別支援教育やカラーユニバーサルデザインなどへの配慮	
① 特別な支援を要する児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ページにわたって検証を行っています。 ● 文意を理解しやすいように、文節で改行しています。 ● 学習に集中し、紙面の中のだいたいの情報に着目できるように、レイアウトや色使いを工夫しました。 ● 点画の書き方の特徴を、擬態語を使って表現し、児童それぞれの理解の仕方に合うよう多感覚へ働きかける工夫をしました。 ● 文字の一筆一画を分解して色分けすることで、ひと筆で書くところが理解しやすく、字形の認知に困難を抱える児童にも効果的です。
② カラーユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ● 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
③ 拡大教科書の発行	<ul style="list-style-type: none"> ● 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。
6, 表記・表現、印刷・造本に関する配慮	
① 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしています。表記や用語は統一した基準を設けています。 ● 使用する漢字は、原則として当該学年以下とし、漢字の学習時期に配慮して、当該学年の漢字には全て振り仮名をつけています。
② 活字	<ul style="list-style-type: none"> ● 手書きの硬筆文字の字形・書き方に準拠し、国語・書写の学習に適した教科書体を独自に開発・使用しています。 ● 教科書体以外は、振り仮名など小さい文字でも読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用しています。
③ 判型	<ul style="list-style-type: none"> ● AB判のワイドな紙面を活用して、図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させています。
④ 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ● 硬筆文字は、印刷の濃度や色味を調整して、より本物に近く、見やすいものになっています。印刷は鮮明で正確です。 ● 用紙は、鉛筆で書き込みがしやすく、十分な強度を持ちながら軽量なものを開発しました。 ● 表紙は、見開きの状態を維持しやすい紙に耐久性を高める加工をし、製本を堅牢にしています。 ● 環境へ配慮し、再生紙や植物油インキを使用しています。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所（頁）	配当時数	3学期制	2学期制		
		(ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しく書くこと。	(イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。	(ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。						
あつめてつかおう、「しよしゃのかぎ」					表紙裏 ～ 2					
しよしゃの学び方					3					
① 楽しく書く	文字を書くしせい	○			4 ～ 5	2	12	18		
	書きやすいもち方	○			6 ～ 7					
② かたかなの書き方	「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」	○	○	○	8 ～ 9	2	12	18		
	文字くらべ	○	○	○	10 ～ 11	3				
③ かん字の書き方	点画の名前	○	○	○	12 ～ 14	2	14	17		
	【生活に広げよう】 れんらくちょうを書こう	○	○	○	15	1				
	ひつじゅんのきまり	○	○	○	16 ～ 17	2				
	画の長さ	○	○	○	18 ～ 19	3				
	「おれ」のむきと「はらい」のむき	○	○	○	20 ～ 21	3				
	【生活に広げよう】 かんさつしたことを書こう	○	○	○	22 ～ 23	1				
	画のつき方と交わり方	○	○	○	24 ～ 25	3				
	文字の形	○	○	○	26 ～ 27	2				
	【文字のいずみ】 書きぞめをしよう	○	○	○	28 ～ 29	2				
	【文字のいずみ】 かん字のなりたち				30					
	【文字のいずみ】 書いてあじわおう〈いろは歌〉				31					
	文字の中心	○	○	○	32 ～ 33	3			9	17
	画のむきと、画と画の間	○	○	○	34 ～ 35	3				
	【学びを生かそう】 二年生のまとめ	○	○	○	36 ～ 37	2				
【学びを生かそう】 「ありがとう」をつたえよう	○	○	○	38 ～ 39	1					
しりょう	一年生で学習したかん字				40					
	二年生で学習するかん字				41 ～ 42					
	一・二年生で学習する「しよしゃのかぎ」				43 ～ 44					
	ひらがなのひょう				45					
						35				